



2017 年度期末連結決算は前年同期比 増収増益！

関西エアポート株式会社は、2017年4月から2018年3月までの第3期会計年度期末決算において、第2期より引き続き、航空需要が堅調に推移したこともあり、営業収益は2,064億円、営業利益は529億円、経常利益は418億円、当期純利益*は283億円を計上しました。

また、2016年4月から2017年3月までと比較すると、営業収益については15%の増加、営業利益については40%の増加、当期純利益においては67%の増加と、増収増益となりました。

代表取締役社長 CEO の山谷佳之と代表取締役副社長 Co-CEO のエマヌエル・ムノントは、次のようにコメントしています。

「2017年度も、多くのお客様にご利用いただき、結果として、前年同期と比べ増収増益となる決算を発表できたことをうれしく思います。2018年4月1日より神戸空港の運営を神戸市から承継し、事業開始しておりますが、皆さまのご支援を賜りながら、関西全体の活性化に貢献できるよう、関西3空港一体運営を創り上げていきたいと思っております。」

(連結損益計算書)

【単位：億円】	2016.4-2017.3	2017.4-2018.3	増減	%
営業収益	1,802	2,064	262	+15%
外部費用	1,033	1,150	117	+11%
EBITDA	769	914	145	+19%
減価償却費	391	384	(7)	-2%
営業利益	378	529	152	+40%
経常利益	262	418	156	+60%
当期純利益*	169	283	113	+67%

* 「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

(航空需要の状況)

主に韓国、香港や東南アジア方面の国際線旅客便が増加した結果、2017年度の航空機発着回数は、関西国際空港では、年度として過去最高となりました。これにより、関西国際空港・大阪国際空港両空港の総発着回数は、年度として過去最高となる32.7万回を記録しました。

航空旅客数は、関西国際空港では、国際線旅客数は2,190万人と、年度として初めて2,000万人を突破する等、昨年度に引き続き好調に推移したことにより、年度として過去最高となる2,880万人を記録しました。大阪国際空港におきましても、機材大型化の影響もあり、前年を上回る結果となり、関西国際空港・大阪国際空港両空港の総旅客数は4,448万人となりました。

	2016.4-2017.3	2017.4-2018.3	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	31.7	32.7	0.9	+3%
関西国際空港	17.8	18.8	1.0	+6%
大阪国際空港	13.9	13.8	(0.0)	-0%
航空旅客数（万人）	4,082	4,448	366	+9%
関西国際空港	2,572	2,880	308	+12%
大阪国際空港	1,510	1,568	58	+4%

(連結貸借対照表)

2018年3月31日現在における財政状態は、公共施設等運営権に係る負債の支払いと、公共施設等運営権の償却が進んだ結果、資産合計は前期末より1,126億円減の1兆7,639億円、負債合計は前期末より1,312億円減の1兆6,792億円となりました。

【単位：億円】	2017.3.31 現在	2018.3.31 現在	増減
流動資産	2,402	1,677	(725)
固定資産	16,363	15,963	(400)
資産合計	18,765	17,639	(1,126)
流動負債	636	807	171
固定負債	17,468	15,985	(1,483)
負債合計	18,104	16,792	(1,312)
株主資本	651	836	185
その他の包括利益累計額	1	0	(1)
非支配株主持分	9	11	2
純資産合計	661	847	187
負債・純資産合計	18,765	17,639	(1,126)

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
企画・管理部 広報・ブランディングチーム
Tel : 072-455-2201

連 結 損 益 計 算 書

自 平成29年 4月 1日
〔 至 平成30年 3月31日 〕

(単位: 百万円)

営 業 収 益		206,371
営 業 費 用		131,043
営 業 総 利 益		75,328
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		22,383
営 業 利 益		52,944
営 業 外 収 益		1,528
受 取 利 息 及 び 配 当 金	789	
持 分 法 投 資 利 益	236	
取 引 補 償 金	251	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	251	
営 業 外 費 用		12,632
支 払 利 息	12,522	
支 払 手 数 料	99	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	9	
経 常 利 益		41,840
特 別 利 益		377
固 定 資 産 売 却 益	7	
補 助 金 収 入	28	
事 業 譲 渡 益	341	
特 別 損 失		697
固 定 資 産 除 却 損	278	
固 定 資 産 売 却 損	0	
固 定 資 産 圧 縮 損	37	
更 新 投 資 に 伴 う 撤 去 費 用	379	
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		41,521
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	14,279	
法 人 税 等 調 整 額	△1,270	13,008
当 期 純 利 益		28,512
非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益		232
親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益		28,279

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結貸借対照表

〔平成30年3月31日現在〕

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	167,668	流 動 負 債	80,703
現 金 及 び 預 金	123,020	買 掛 金	3,996
売 掛 金	10,857	未 払 金	22,937
商 品	4,588	未 払 費 用	2,121
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	1,216	1年内返済予定の長期借入金	3,127
1年内回収予定の 差 入 保 証 金	13,199	1年内支払予定の公共 施設等運営権に係る負債	29,042
未 収 金	11,379	未 払 法 人 税 等	13,522
繰 延 税 金 資 産	1,363	賞 与 引 当 金	981
そ の 他	2,042	ポ イ ン ト 引 当 金	81
貸 倒 引 当 金	△0	そ の 他	4,893
固 定 資 産	1,596,261	固 定 負 債	1,598,505
有 形 固 定 資 産	24,915	社 債	4,860
建 物 及 び 構 築 物	3,714	長 期 借 入 金	184,338
機械装置及び運搬具	7,793	公 共 施 設 等 運 営 権 に 係 る 負 債	1,353,906
土 地	604	繰 延 税 金 負 債	45
建 設 仮 勘 定	8,496	特 別 修 繕 引 当 金	44,157
そ の 他	4,306	退 職 給 付 に 係 る 負 債	3,853
無 形 固 定 資 産	1,444,539	そ の 他	7,343
公 共 施 設 等 運 営 権	1,433,850	負 債 合 計	1,679,208
更新投資に係る資産	8,960	純 資 産 の 部	
公 共 施 設 等 運 営 権 仮 勘 定	497	株 主 資 本	83,581
そ の 他	1,230	資 本 金	25,000
投 資 そ の 他 の 資 産	126,805	資 本 剰 余 金	25,000
投 資 有 価 証 券	1,614	利 益 剰 余 金	33,581
退職給付に係る資産	235	その他の包括利益累計額	34
差 入 保 証 金	121,683	その他有価証券評価差額金	49
繰 延 税 金 資 産	3,196	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 14
そ の 他	83	非 支 配 株 主 持 分	1,105
貸 倒 引 当 金	△ 8	純 資 産 合 計	84,721
資 産 合 計	1,763,930	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,763,930

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964 年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971 年の香港進出を皮切りに世界 38 カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、36 空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス、ポルトガル（リスボンのハブ空港含む）、カンボジア、日本、ドミニカ共和国、チリ、そしてブラジルの空港には、合計で 200 社を超える航空会社が就航し、2017 年の旅客者数は 1 億 5,660 万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとして、1 万 2,000 人のスタッフの専門知識と経験を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして既存空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設を行っています。

2017 年の連結売上高は 14 億ユーロ、グループ全体の売上高は 32 億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2017年度 期末連結決算

2018.6.7



Shaping a New Journey



アジェンダ

- ◉ 期末連結決算ハイライト
- ◉ 営業収益分析
- ◉ 投資計画
- ◉ 2017年度 期末連結決算の概要





期末連結決算ハイライト

2017年度の業績 2年連続 増収増益

【単位：億円】

1. 旺盛なインバウンド需要

⇒KIX国際線を中心に航空旅客数が大幅に増加

2. 関西エアポートの各種施策の効果

⇒免税や物販などの直営事業収入を中心に、旅客数の伸び率を上回る増収

	2016年度	2017年度	増減	%
営業収益	1,802	2,064	262	+15%
EBITDA	769	914	145	+19%
営業利益	378	529	152	+40%
経常利益	262	418	156	+60%
当期純利益*	169	283	113	+67%

*「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載



營業收益分析

増収の要因【航空系】 ①発着回数・旅客数が過去最高

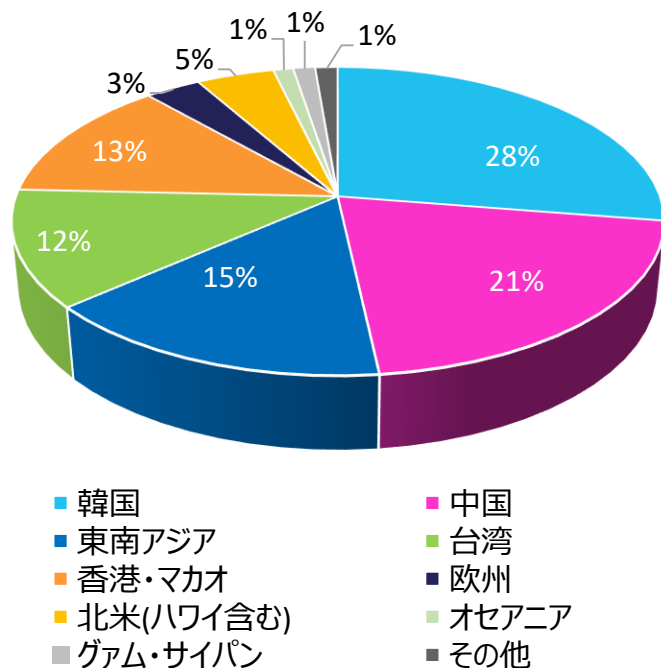
- 国際線旅客数は初めて2,000万人超
- 国際線外国人旅客数が1,501万人で過去最高
- 大阪国際空港：旅客数が前年比4%増

	2016年度	2017年度	増減	%
発着回数（万回）	31.7	32.7	0.9	+3%
関西国際空港	17.8	18.8	1.0	+6%
大阪国際空港	13.9	13.8	(0.0)	-0%
航空旅客数（万人）	4,082	4,448	366	+9%
関西国際空港	2,572	2,880	308	+12%
国際線	1,915	2,190	275	+14%
日本人旅客	651	670	19	+3%
外国人旅客	1,243	1,501	258	+21%
大阪国際空港	1,510	1,568	58	+4%

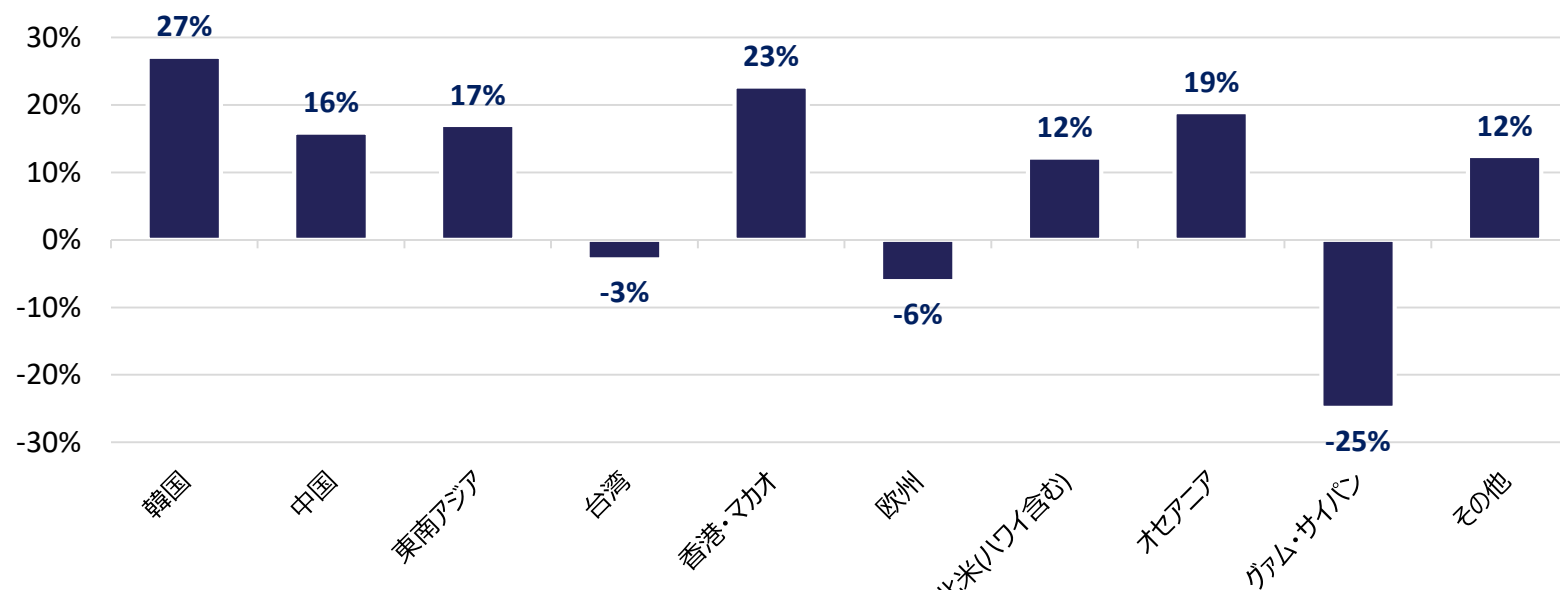
増収の要因【航空系】 ②東アジア方面の国際線旅客が好調

- ➔ 韓国、中国のマーケットが引き続き成長の主な原動力
- ➔ 前年度からの国際線旅客数の伸び率 韓国：+27%増加, 中国：+16%増加

2017年度国際線旅客数 方面別内訳



2017年度国際線旅客 方面別伸び率（前年同期比）



出典：関西エアポート

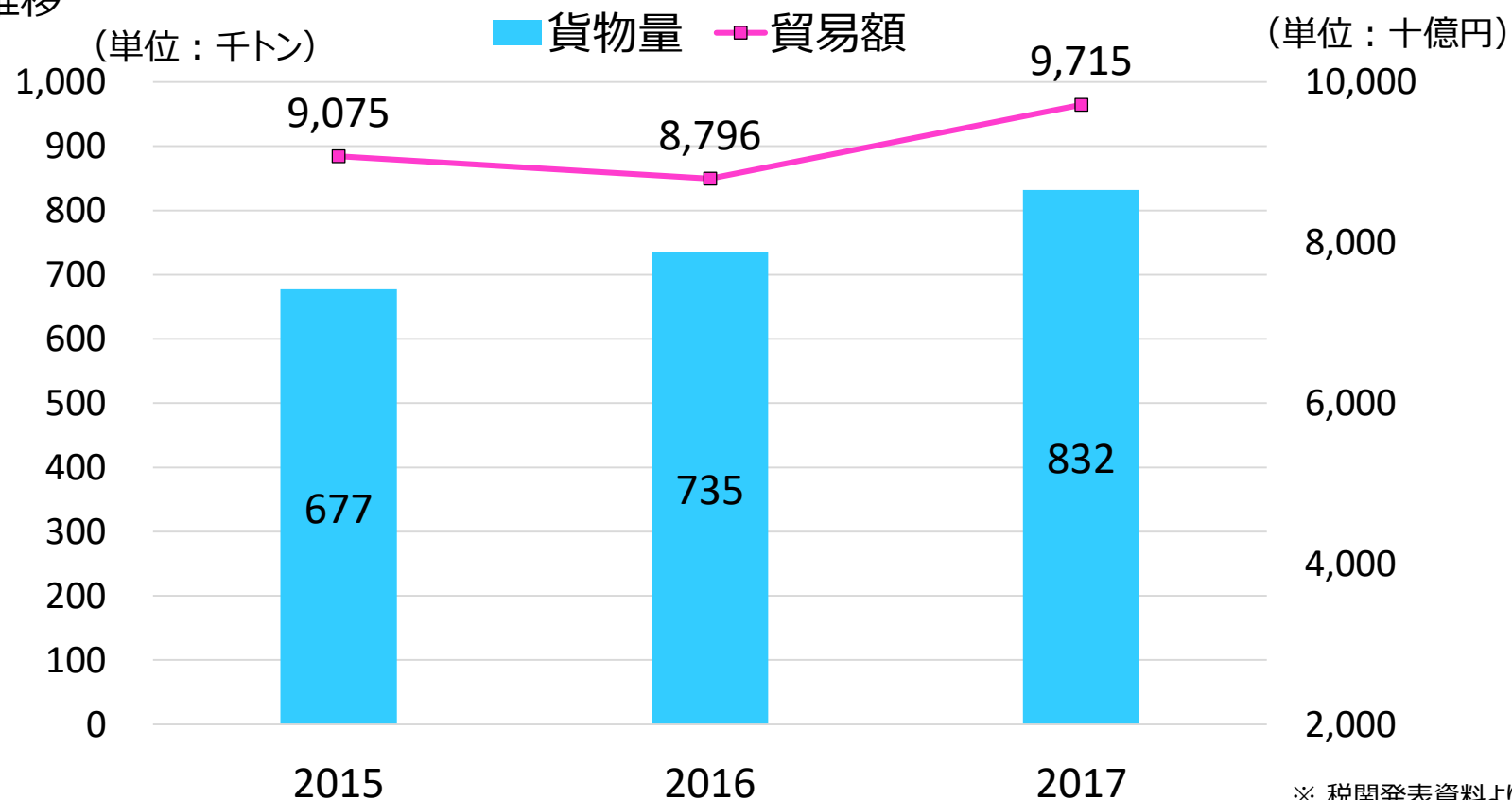
増収の要因【航空系】 ③2017年度 新規路線、新規就航エアライン



増収の要因【航空系】 ④好調な国際貨物

➔ 国際貨物量が好調：2016年度比13%増の83万2000トン

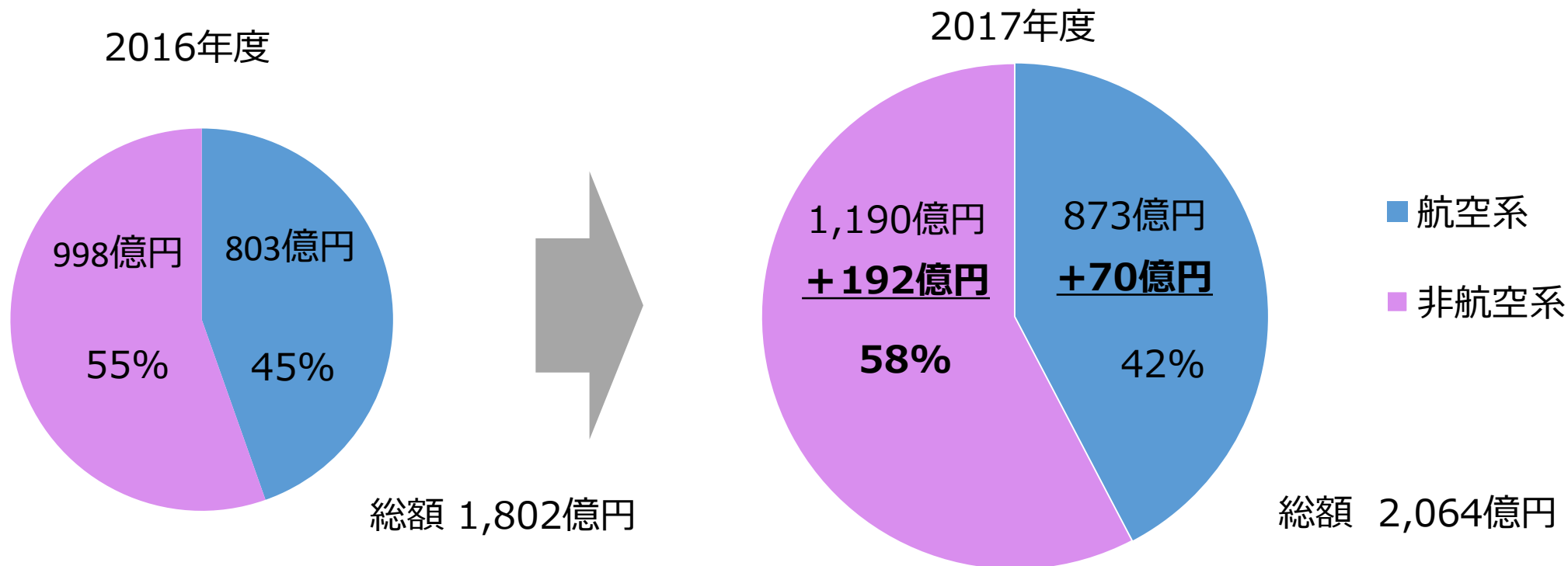
国際貨物量と貿易額の推移



※ 税関発表資料より、関西エアポート作成

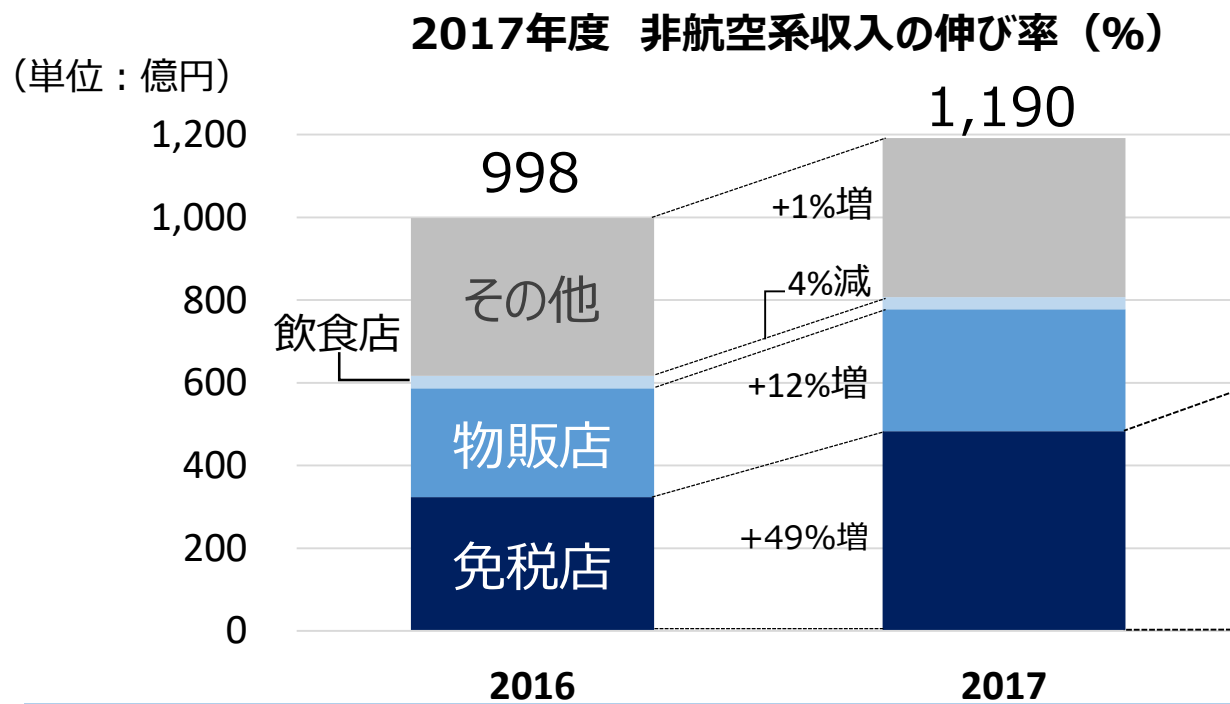
非航空系収入の割合が増加。 航空系収入・非航空系収入ともに増収

- 非航空系収入の割合：対前年3%増の58%
- 航空系収入：旅客サービス施設使用料を中心に70億円の増収
- 非航空系収入：免税や物販などの直営事業収入を中心に192億円の増収

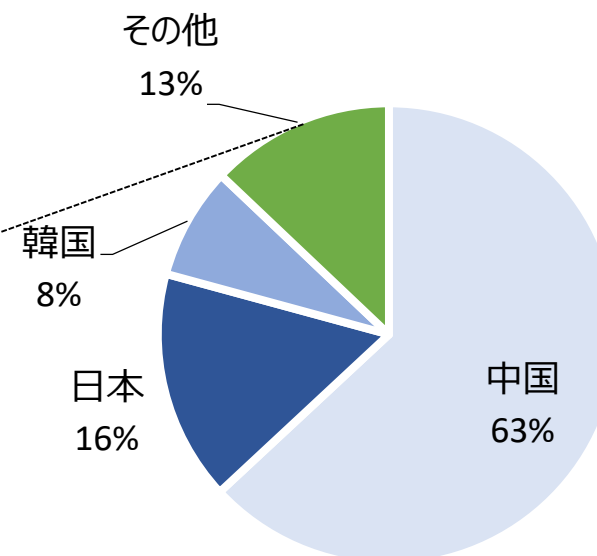


増収の要因【非航空系】 旅客数の伸びを上回る非航空系収入

- ➔ 非航空系収入は、前年比19%増加し過去最高の1,190億円を記録（航空旅客数の前年伸び率（9%増）を上回る）
- ➔ 前年比49%増加した免税事業収入が商業事業の力強い成長をけん引
- ➔ 免税店における中国人売上は高い客単価と購買率に支えられ63%にまで拡大



2017年度 国籍別免税店売上の割合（%）





投資計画

投資計画

→ 今後5年間でKIX/ITAMI/KOBE 3 空港に対し
総額約**1,000億円**の投資を計画

【主なプロジェクト】

- 安全安心のための取り組み
 - KIX受託手荷物保安検査機器高度化
 - 3 空港の天井の耐震強化
 - 沈下対応（定期メンテナンス）
- 利便性・快適性向上のための取り組み
 - ITAMI・KIX全旅客搭乗橋の更新
 - ファストトラベルの取り組み
 - ITAMI ターミナル リノベーション



ファストトラベルの取り組み事例



PFM (Passenger Flow Management System)



自動チェックイン機 (KIX)



※イメージ

セルフバゲッジドロップ (KIX)

※導入予定



スマートレーン (KIX・ITAMI)



フルフラットPBB (ITAMI)



2017年度 期末連結決算の概要

経営成績

【単位：億円】

	2016年度	2017年度	差額	%
営業収益	1,802	2,064	262	+15%
航空系収益	803	873	70	+9%
非航空系収益	998	1,190	192	+19%
営業費用 (減価償却費除く)	1,033	1,150	117	+11%
EBITDA	769	914	145	+19%
減価償却費	391	384	(7)	-2%
営業利益	378	529	152	+40%
経常利益	262	418	156	+60%
当期純利益*	169	283	113	+67%

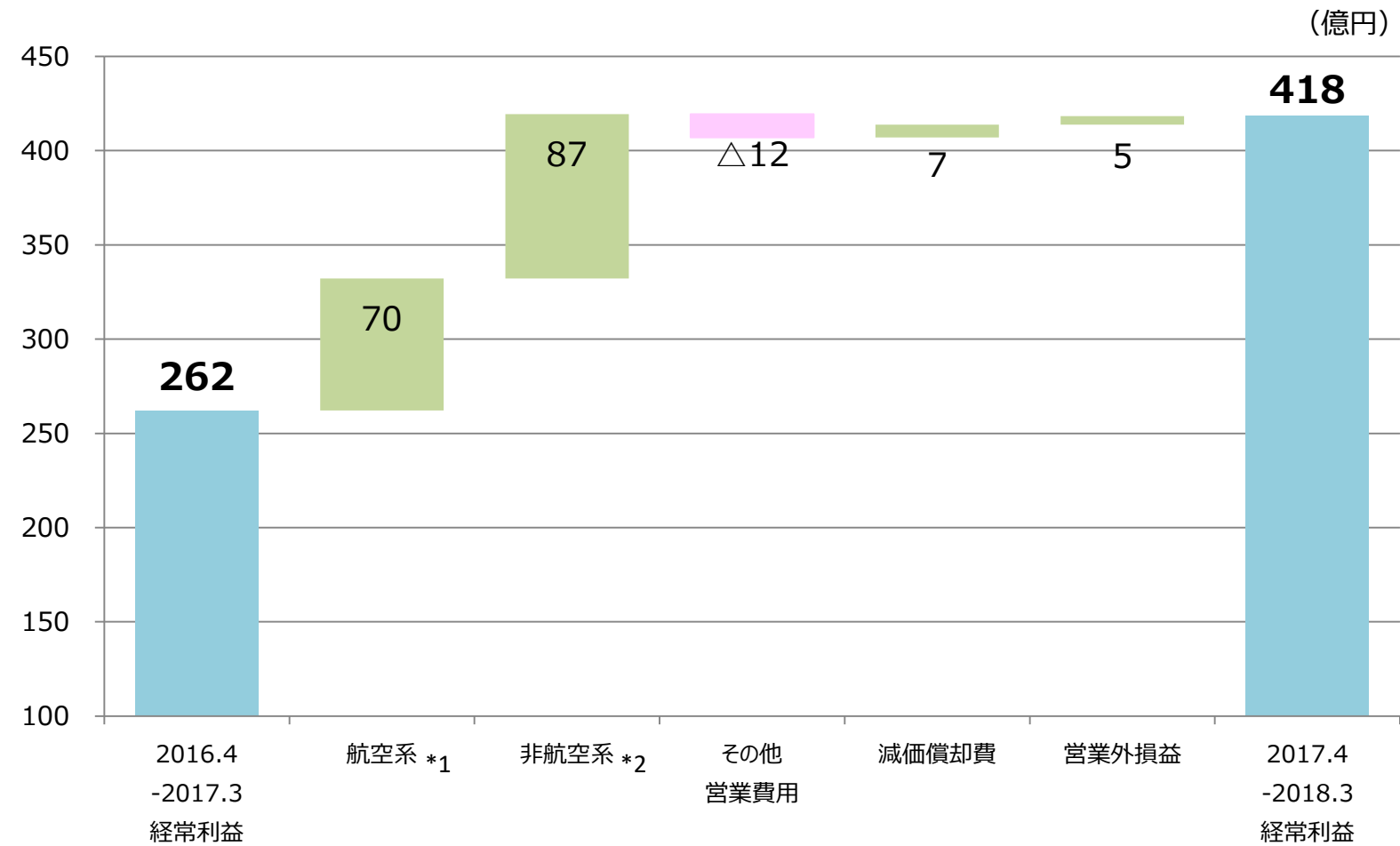
バランスシート

【単位：億円】

		2016年度末 (2017.3.31現在)	2017年度末 (2018.3.31現在)	増減
公共施設等 運営権	流動資産	2,402	1,677	(725)
	固定資産	16,363	15,963	(400)
	資産合計	18,765	17,639	(1,126)
公共施設等 運営権に係る負債	流動負債	636	807	171
	固定負債	17,468	15,985	(1,483)
	負債合計	18,104	16,792	(1,312)
	株主資本	651	836	185
	その他の包括利益累計額	1	0	(1)
	非支配株主持分	9	11	2
	純資産合計	661	847	187
	負債・純資産合計	18,765	17,639	(1,126)

経常利益分析

経常利益における前年同期比増加分の内訳



*1：航空系営業収益の増加額
*2：非航空系営業収益の増加額－売上原価の増加額

EBITDA分析

EBITDAにおける前年同期比増加分の内訳

